

2009年(平成21年)3月16日(月曜日)

建設インフラマネージャーフォーラム

アグリビジネス分科会2009 in 仙台

全7回の2

特別講演では、宮城
大学大学院事業構想研
究科長の大泉一貫教授



宮城大学大学院
事業構想研究科長

大泉一貫教授が特別講演

が「地域農業を核とし
た融合産業化」と題し
て、農業が他産業と融
合することの
意味を語っ
た。

この中で大
泉教授は、国
内の農業構造
改革で1次産
業衰退論があ
ることを指
摘、これに対
して

建設業の他産業との融合切り口に

欧州では観光やIT
産業と融合したグロ
バルビジネスに成長し
ている事例を挙げ、知
識産業化しながら不特
国内農業について

ハウを取り入れること
が可能になり、これが
成長力となる」と方向
性を示した。

その上で「農商工連
携という仕組みにおい
てはマッチング機能が
要諦である」として、
優秀な生産者の発見・
提携、農協の営農指導
による対応、自社ファイ
ールドマンによる契約
農家への対応など先進
企業の取り組み事例を
紹介し、「建設業は大
胆に参入してほしい」と
結んだ。

は、「第2次産業が伸
びているところで農業
も成長している」と愛
知や静岡の例を挙げ、
「これらの地域には市
場経済になじみ産業の
ノウハウが地域に蓄
積、進取の気風がある」
また、規模を拡大し
る農業範囲外としたこ
となど、事業領域が狭
められてきた経過を説
明。「農地開放以前に
は集落ごとによりター
が存在し、作付けや販
売などで独自のビジネ
スマデルを打ち出して

(福島建設工業新聞
社 関根正稔)

日本には建設業が必要です